



於：2019年7月12日（金）午前10時～11時半 四日市市立図書館 2階視聴覚ホール

絵本の好きな人が集まり、絵本について気軽に話をしよう！と行っている「おしゃべりえほんの会」。今回は、少し雰囲気を変え、読みきかせの絵本について、本を持ち寄り、紹介し合いました。

本の並べ方も一工夫。私たち児童室担当者が選んだ絵本たちは、それぞれ個人のゾーンを作り、まとめて並べてみました。「困ったらこれを読む本」「急にでも読める本」「他の担当者が遠慮して読まない本」などを基準にしました。



並べてみると、それぞれに個性があって、楽しいものになりました。それに加えて、参加者の持参した絵本のコーナーも作ると、かぶっている絵本があったり、この人と好みに近いね！という発見があったりと、親近感を抱くことができました。

読みきかせのボランティアを始めたばかりの人から“超”ベテランまでの参加者は、しばらくの間、気になった絵本を手にしたり、個々で話をしたりしていましたが、読みきかせは聞いてこそ！という

ことで、何冊か、お互いに読み合いました。

「この絵本を読んでみてほしい」とリクエストがあった絵本を、それを持ってきた人が読む、という形。『ぼんちんぱん』『おおかみだぁ』『うしはどこでもモー』『まわるおすし』『ごびらっぷの独白』『あーといてよあー』が参加者の前で披露されました。

人が読んでいるのを聞くのは、とても楽しい体験です。自分がよく知っている本でも、だれかに読んでもらうとまた違った、新鮮な面白さ。ああ、あの絵本は、あんなふうにも読んでいいんだ、と、教わったりもします。

また、読んでいるほうは、聞き手が感情のまま素直に楽しんでいる様子を見ると、同じように、どんどん楽しくなっていきます。



やはり大切なのは、**自分の大好きな絵本を、愛情を持って読むこと**なんですね。
聞く側の年齢や構成はある程度考慮が必要ですが、すべてを聞き手に合わせるのではなく、
「好きな本」の一点だけは、絶対に守りたいものです。

また、読みきかせを長年続けてこられた方からは、
「面白い、楽しい本もいけれど、日本語の、美しい言葉の絵本も読み続けていく」
「こんな読んでもいいのかな、躊躇する絵本でも、本に書いてあるのだから、読んでもいいのだ」という
言葉をいただきました。

この日の最後は、「今日ここで出会って、自分もぜひ読んでみようと思った本」を
一冊ずつ選び、発表しました。こ
のようにたくさんの絵本にふれて、自分の中の絵本の
ストックを増やしていけたらいいですね。

★この日の絵本★

読みきかせをした絵本

ぼんちんぱん 柿木原 政広／作 福音館書店
あーといってよあー 小野寺 悦子／文 堀川理万子／絵 福音館書店
まわるおすし 長谷川 義史／作 ブロンズ新社
おおかみだあ！ セドリック・ラマディエ／文 ヴァンサン・ブルジョ／絵
うしはどこでも「モー！」 エレン・スタスキー・ワインスティーン／文 ケネス・アンダーソン／絵
ごびらっぷの独白 草野心平／詩 いちかわなつこ／絵 ほるぷ出版

これから読んでみたい、と思った絵本

がまんのケーキ かがくい ひろし／作・絵 教育画劇
カどこいった？ 鈴木 のりたけ／作・絵 小学館
えがないえほん B.J.ノヴァク／作 早川書房
ざしきわらし 柳田 国男／原作 汐文社
おたのしみじどうはんばいき 宮知和代／作 アリス館
びょーん まつおか たつひで／作・絵 ポプラ社
じめんのしたにはなにがある 中川ひろたか／文 アリス館
ごびらっぷの独白 草野心平／詩 いちかわなつこ／絵 ほるぷ出版

ほか、話題にのぼった絵本

びっくりまつぼっくり 多田 多恵子／文 福音館書店
だいふくもち 田島 征三／作・絵 福音館書店
はぐ 佐々木 マキ／作 福音館書店
ぜったいにおしちやダメ？ ビル・コッター／作 サンクチュアリ出版
ランドセルは海を越えて 内堀 タケシ／写真・文 ポプラ社
わゴムはどのぐらいのびるのかしら マイク・サーラー／文 ジェリー・ジョイナー／絵 ほるぷ出版
ぞうきばやしのすもうたいかい 広野多珂子／文 廣野研一／絵 福音館書店
カエルのおでかけ 高島 那生／作 フレーベル館
てんしき 川端 誠／作・絵 角川書店